

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育)

法人名 京都大学

学部・研究科等名 工学研究科

### 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 : III「教育方法」

### 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名 : 主体的な学習を促す取組

平成19年度から3年間、文部科学省「大学院教育改革支援プログラム」に採択され、「インテック・フュージョン型大学院工学教育～専攻融合・教育課程連携によるフュージョン型大学院工学教育～」プログラムを実施し、社会の多岐にわたる分野において広い視野とリーダーシップをもって国際的に活躍できる研究者および高度技術者を育成することを目的として、海外からの研究者および講師を招聘し、特別講演・セミナー（平成20年度37件、平成21年度31件）、集中講義（平成20年度5件、平成21年度6件）を実施した。集中講義では、遠隔講義システムを用い、京都大学と香港科学技術大学の学生が同時に聴講する連携講義「マイクロシステム工学、微小電気機械システム創製学」等も実施し、より実質的な国際交流教育の機会を創出した。

また学生の国際的視野の育成を図るため、大学院生の国際会議参加の支援（平成20年度26名、平成21年度45名）を実施し、国際会議での口頭発表や外国の研究者との意見交換を通じて、大学院生自らが問題点を発見し、英語コミュニケーション能力の重要性を理解する機会を提供した。

さらに、平成19、20年度に採択した「グローバルCOEプログラム」の3拠点においては、幅広い学域の統合や融合による教育研究の国際的拠点形成と国際性と自立性に富んだ次世代研究者の育成を目的とし、海外連携拠点との学術協力体制を強化するため、大学院生を海外に派遣した（延べ数平成20年度145名、平成21年度240名）。また、国際的感覚の育成や人的ネットワークの形成を支援するため、世界から当該研究分野の最前線で活躍する研究者を招聘し、シンポジウム、ワークショップやセミナー（平成20年度196件、平成21年度248件）を開催した。

#### 【平成20、21年度に実施した海外からの招聘講師等による主な特別講演・セミナー・集中講義（一部）】

講師氏名	講師所属・国名	講義科目名等	講義期間
Salmaan Hussain Inayat Hussain	マレーシア国民大学(マレーシア)	環境リスク管理論 「The role of apoptosis in benzene metabolites toxicity」	2008年11月26日
John R. Miller	Brookhaven National Laboratory(アメリカ)	Charge Delocalization and Transport in Conjugated Molecules: "Molecular Wires" for Photovoltaics?	2008年11月14日
Lal Samarakoon	アジア工科大学(タイ)	Application of Satellite Remote Sensing for Disaster Prevention and Mitigation	2010年1月8日
Manfred SCHLOSSER	ISIC Institute of Chemical Sciences and Engineering(スイス)	Organometallic Chemistry of Main Group Elements 典型元素の有機金属化学	2009年4月7日～ 4月22日

#### 【平成20、21年度に実施した大学院生海外派遣支援】

- ・平成20年度（延べ数171人）
- ・平成21年度（延べ数285人）